

# 出町ゆかりだより

日本共産党 高槻市会議員

発行：日本共産党高槻市会議員団　出町ゆかり
連絡先：議員団控室　TEL072-674-7230 FAX072-674-3202

NO.164　2026年11月

## 2025年度の決算委員会

10月14日から20日まで、決算委員会がありました。今年はわたし、出町が委員でした。33項目において質問しました。いくつか報告します。

### 総務費 洪水時緊急安全確保施設について

異常気象や台風・豪雨などで水害が全国各地でおきています。高槻市でも淀川や如是川などの河川の氾濫が心配されています。市内南部の淀川近辺には高い建物がないため、地域住民の方から要望書も出されています。公共施設の洪水時の緊急安全確保施設の状況と民間の避難施設の必要性について市の考えを聞きました。

市は「早いタイミングで市北部の指定緊急避難所などの避難していただくことが基本だが、逃げ遅れた市民の命を守るための退避場所として、浸水想定区域内にある小中学校30校を指定している。民間施設にも協力を求めていく」と答弁しました。

わたしは「緊急性をすぐに伝えること、避難するところを具体的に示すことが必要。身近なところにすぐ駆け込めるよう、民間の避難所ももっと増やしてほしい」と要望しました。

### 職員のストレスチェックについて

過去3年間、心の病気で休職した職員は2025年度37人、2024年度36人、2023年度38人です。

高槻市は毎年社保加入者の職員の希望者に対して「ストレスチェック」を実施しています。その実施状況と休職後の職場復帰の状況について質問しました。

市は「昨年度は3,900人の職員のうち、2,512人がストレスチェックを受けた。職員のメンタルヘルスなどの相談は、相談者と精神科医が1対1で面談する『こころの健康相談』を月2回実施している。本人からの申し出などに加え、ストレスチェックの結果が高ストレスと判断された職員に対しても、保健師から勧めている」と答えました。

わたしは「毎年40名近く、休職している。求職する原因を把握し、できる限り職場でのストレスをなくしていくことが大切。休職中も産業医と相談できるような支援が必要。できるだけ多くの職員がストレスチェックを受けられるように」と要望しました。

### 民生費 保育士等への奨学金返済事業について

市は現在、奨学金を返済している民間保育士に毎月2万円を3年間給付しています。何人が利用し、効果について質問しました。

市は「昨年度末では50人の人が利用している。事業者へのアンケート調査では、採用活動が有利に働く、離職防止につながるとの声もあり、事業の継続を求める声も多くある。」と答えました。

わたしは「奨学金返済に困っているのは保育士だけではない。多職種にも拡げてほしい、国に対しても学費の値下げ、給付型奨学金の実施を要望してほしい」と訴えました。

※この事業は来年度

二面へ続く

から給付期間が3年間から10年間に延長されます。

## ヤングケアラー ピアサポート事業について

家族の介護等をしている子どもや若者を対象に、互いに交流できる場の提供、家族のケア負担を経験した支援者等が、相談及び面談に応じ必要な支援につなぐために実施されている事業です。

昨年度の利用者や相談支援内容について質問しました。

市は「昨年度の利用は延べ244人。家族のケア負担に関する悩み、自身の進路や就職など将来への不安についての相談を受け、家族等が利用する福祉サービスの手続きや医療機関への受診等に付き添うなどの支援をした」と答弁しました。

わたしは「ヤングケアラーの問題については、当事者だけでなく、家族全体のしんどさを解決しないと解消されない。当事者を孤立させない、子どもの権利を保障する視点で、行政や学校などの教育現場む関わっていくことが大切」と発言をしました。



## 障害者就労支援について

一般的な仕事で働くことが難しい障害者をサポートする就労施設B型は、障害者の日中活動、福祉的就労の場として中心的役割を担っています。A型は、通常の事業所に雇用されることが可能な人に必要な支援をします。B型の就労支援施設は大阪府内で10年前に比べて、7倍に増えています。

わたしは「大阪府の実態調査では在宅作業が可能、観葉植物の水やり、また広告では交通費無料、食事つきということも書いていた。就労支援としてどこまで認めるのか、広告の内容、事業の内容についてはどういう指導をされているのか」と質問しました。

市は「不当な利益誘導や事実と異なる内容のときは取り下げるよう指導している。収支状況を確認し、助言指導をしている」と答弁しました。

## 教育

中学校の通学定期について質問し、要望しました。昨年度中学生で、通学定期を利用している生徒は40人。通学時間が一番長く、定期の負担が多いのが樫田地域から通っている中学生です。来年度から小学生の市バス料金が無料になります。中学校の通学定期もぜひ、考えてほしいと訴えました。

## 介護保険の改悪は許せない



来年4月から3年間の計画についての議論が進められています。

**①利用料2割負担の対象を拡大**

今まで、何度も厚労省から出され、多くの反対意見、慎重意見が出ています。国は「2026年度中に結論を得る」としています。

**②ケアプランの有料化**

今回は見送りになりました。有料化されると、介護サービスを受ける人や、介護度が重くなった人の区分変更をする人が減り、必要な介護が受けられなくなります。

**③要介護1，2の介護保険外し**

総合事業に移行する案が出されています。これも今回は見送りになりました。受け皿となる総合事業が整備されていないという現状があります。

※今必要なのは介護職員の処遇の改善、利用料の減免制度です。国の負担をもっと増やすことが必要です。

われ、札幌市では2社で合計5億円の不正請求が行われた。適正に運営されているのか、障害者のためになっているのか、考えて必要な対策を」と求めました。